Ｎｏ．６６０【２０２５年７月１１日配信】

戦時中に定められたりんごの和名（担当：竹内理香）

こんにちは。歴史資料室の竹内です。

歴史資料室では現在、館内展示戦後 80 年企画「昭和 20 年～戦中と戦後が重なった年～」を 8 月 21 日（木）まで行っています。

戦時中の日本では交戦国や西洋から入ってきた言葉を敵の言葉とし、排斥しようという動きがありました。国民の愛国心を高め、戦意を鼓舞することが目的で、野球では「ストライク」は「よし」、「アウト」は「それまで」に言い換えられました。

昭和 18 年（1943）青森県と東奥日報社は、県農業会や大政翼賛会県支部の後援を得て、デリシャスやスターキングなど洋名がついていた青森りんごに新たな和名を付ける「リンゴ米英名撃墜改称運動」を主唱しました。和名は県民から一般公募する事となり、2 月 24 日付『東奥日報』には「県特産品たるりんごから米英臭を一掃する事が青森県民の義務であろう、百万県民総力の下に達成したい」と改称するべきりんご 14 品種と募集要項が掲載されました。反響は大きく 3 月 15 日の締め切りまでに 5,146 件の応募がありました。



絵はがき「郷土名産（リンゴ）」（昭和 10 年代・青森県所蔵県史編さん資料）

りんごの和名を決める改称審査会は 4 月 8 日青森商工会議所で開かれ、審査委員長の宇都宮青森県知事をはじめ特別審査委員の北大農学博士島善鄰（しまよしちか）、りんご栽培家や評論家によって選考されました。選考の結果は次のとおりです。

デリシャス「陽玉」　スターキング「太陽」　サン・ワシントン「初紅」
ゴールデン・デリシャス「黄冠」　リチャード・デリシャス「瑞光」
ステーマン「日出」　ウィルソン「紅鶴」　ウィンター・バナナ「芳玉」
サンマー・チャンピオン「縞錦」　レネット「月光」　セネター「明星」
ドイル「紅衣」　エーケン「栄冠」　ウイスマス・デザート「朝陽」

この新たな和名は島善鄰博士によって 4 月 11 日に日本園芸学会に報告され、14 品種すべてのりんごの和名は日本全国で通用する名称と承認されました。4 月 13 日付の『東奥日報』には早くも和名の札が下げられた青森市の果物店の写真が「街に現れた日本名　県産りんご」という見出しの記事とともに掲載されました。

こうして決まったりんごの和名は終戦をむかえると使用される事はなくなり、再び洋名で市場に出回るようになりました。当時和名がつけられた 14 品種のりんごは品種改良による主力りんごの変化で現在は生産されていないものもあります。

※今回の内容は『新編　弘前市史　通史編 5（近・現代 2)』、『目で見る　青森リンゴの 100 年』（1974 年　東奥日報社)、『津軽りんご人物史』(1993 年　斎藤　康司）を参考にさせていただきました。



りんご大市に並ぶリンゴ（2014 年撮影）